

スポーツ健康科学紀要

第13号

目次

論文

- スマトラ沖地震10年後の災害記憶と防災意識
—タイ国バンガー県の高校生を事例として— 金田 英子 (1~4)

研究ノート

- グループの力を自己学習力へ活かす (4)
—アドベンチャー指向で体育実技を考える— 田代 浩二・山路 歩 (5~13)

資料

- 柔道の普及と変容に関する研究
—グレイシー柔術に着目して— 谷釜 尋徳 (15~43)

報告

- タイにおける被災後のコミュニティ開発プロセスと公衆衛生基盤の形成要因
..... 金田 英子・川澄 厚志・安 相景・高橋 一男 (45~57)

講演会報告

- ドイツと日本のオリンピック・ムーブメント
..... 報告者 谷釜 尋徳・尾川 翔大 (59~66)
講演者 ミヒヤエル クリューガー

東洋大学

2016年3月



東洋大学

スポーツ健康科学紀要

第13号

東洋大学

東洋大学スポーツ健康科学紀要編集委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、東洋大学スポーツ健康科学委員会が発行する「東洋大学スポーツ健康科学紀要」(以下「紀要」という)の編集及び発行について必要な事項を定めることを目的とする。

(編集委員会)

第2条 「紀要」の編集、発行、その他「紀要」に関する事項を処理するため「東洋大学スポーツ健康科学紀要編集委員会」(以下「委員会」という)を設置する。

(委員)

第3条 委員会は、次の者をもって構成する。

- (1) スポーツ健康科学白山キャンパス研究室室員
- (2) スポーツ健康科学川越キャンパス研究室室員
- (3) スポーツ健康科学板倉キャンパス研究室室員

委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(委員長および副委員長)

第4条 委員会に委員長1名及び副委員長1名を置く。

- (1) 委員長および副委員長の選出は、委員の互選による。
- (2) 委員長は、委員会の会務を総括する。
- (3) 委員長は、必要に応じ委員会を招集し、その議長となる。

(4) 委員長に事故あるときは、副委員長が代行する。

(審議決定事項)

第5条 委員会は、次の事項を審議、決定する。

- (1) 「紀要」の編集に関する事項
- (2) 「紀要」の発行に関する事項
- (3) その他、委員会が必要と認めた事項

前項以外の投稿・執筆に関する事項は、別に定める。

(会議)

第6条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ会議を開くことができない。会議の議事は、出席委員の過半数で決定し、議長は採決に加わらないものとする。また前項で可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(改正)

第7条 この規程の改正は、東洋大学スポーツ健康科学委員会の議を経て、スポーツ健康科学委員会委員長が行う。

附 則

この規程は、平成20年11月15日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

東洋大学スポーツ健康科学紀要投稿規程

(目的)

第1条 「東洋大学スポーツ健康科学紀要」に投稿する者は、この規程の定めるところによる。

(投稿資格)

第2条 執筆者は、原則として以下の者にする。

- (1) 東洋大学スポーツ健康科学白山キャンパス研究室室員。
- (2) 東洋大学スポーツ健康科学川越キャンパス研究室室員。
- (3) 東洋大学スポーツ健康科学板倉キャンパス研究室室員。
- (4) 教養教育のスポーツ健康分野科目の授業を担当する非常勤講師（兼担を含む）。

(申込及び締め切り)

第3条 執筆申込及び原稿提出締め切りは、年1回発行の場合、次の各号の通りとし、年2回発行の場合は、その都度別に定める。

- (1) 執筆申込は、別に定める「スポーツ健康科学紀要執筆申込書」を提出する。
- (2) 原稿の提出締め切りは、編集委員会により決定する。
- (3) 上記(1)、(2)の提出先は、委員長とする。

(原稿の種類)

第4条 この「紀要」に投稿できる原稿の種類は、論文・総説・資料・研究ノート・研究活動報告などとする。

(タイトル)

第5条 投稿する原稿は、和文または欧文とし、和文原稿には欧文タイトル、欧文原稿には和文

タイトルを付す。

(摘要)

第6条 投稿する原稿には、摘要（タイトル・執筆者氏名とも）をつけることとする。

- (1) 和文原稿の場合は外国文による摘要、外国原稿の場合は和文による摘要とする。
- (2) 分量は、紀要1ページ以内とする。
- (3) 掲載場所は、各原稿の最初とする。

(別刷)

第7条 別刷は、論文1篇につき50部とする。ただし、それ以上を希望する者は、原稿提出時50部を単位として別に申し込むものとする。

(著作権)

第8条 掲載された論文の著者は、当該論文に関する複製及び公衆送信を委員会に対して許諾したものとみなす。委員会が複製及び公衆送信を第3者に委託した場合も同様とする。

(改正)

第9条 この規程の改正は、東洋大学スポーツ健康科学委員会の議を経て、スポーツ健康科学委員会委員長が行う。

附 則

この規程は、平成20年11月5日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

「スポーツ健康科学（白山キャンパス）研究室」スタッフ一覧

専任教員

【経済学部】

塩田 徹，角南俊介

【経営学部】

西村 忍，安則貴香

【法学部】

金田英子，谷釜尋徳，土江寛裕，平井伯昌

非常勤講師

今野 亮，佐久間 康，須田和也，田代浩二，番場裕之

「スポーツ健康科学（川越キャンパス）研究室」スタッフ一覧

専任教員

【理工学部】

一川大輔，山崎享子

非常勤講師

大橋信行，小川貴志子，奥田功夫，重藤誠市郎，千野謙太郎，長澤純一，藤城仁音，山下大地

「スポーツ健康科学（板倉キャンパス）研究室」スタッフ一覧

専任教員

【食環境学部】

大上安奈，高橋珠実

非常勤講師

新井淑弘，高橋 進，野間明紀，横矢勇一

◆執筆者（筆頭著者）一覧◆

1. 金田 英子（カネダ・エイコ／法学部法律学科）
2. 田代 浩二（タシロ・コウジ／非常勤講師）
3. 谷釜 尋徳（タニガマ・ヒロノリ／法学部法律学科）

◆編集後記◆

お陰さまをもちまして、『スポーツ健康科学紀要』第13号が発行の運びとなりました。今回も、多様な視点から、スポーツや健康にまつわる諸問題に迫るラインナップとなっています。投稿者の先生方をはじめ、本誌の編集作業にご協力をいただいた皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

今年度のスポーツ界を振り返ってみると、ラグビー W 杯での日本代表の大躍進、フィギュアスケートの羽生結弦選手の GP ファイナル 3 連覇（歴代最高得点を更新）、スポーツ庁の設置など、明るい話題もたくさんありました。その一方で、FIFA 会長の汚職、ロシア陸連のドーピングスキャンダル、プロ野球選手の賭博問題など、不正と汚職にまみれたスポーツ界の実態が露呈した 1 年でもありました。また、集客力のあるスポーツイベントが、絶えずテロの脅威にさらされていることを改めて認識する出来事も起こりました。ISIL のような世界を震撼させるテロリスト集団から、いかにして選手、スタッフ、観客、近隣の人々を守るのかということは、スポーツ界が直面する喫緊の課題です。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの準備が、いくつかの騒動を含みながらも粛々と進められています。東洋大学でも2015年度の秋学期から、全キャンパスの学部生に向けて「オリンピック・パラリンピック講座」が正課授業として始まりました。関連の講演会や公開講座も学内で活発化し、そのひとつは本誌にも掲載されています。

今年、2016年は夏季のオリンピック・パラリンピック・イヤーです。多くの東洋大学関係者が、選手・スタッフとしてリオ大会に参加する可能性があります。皆、持てる力を存分に発揮し、遥か地球の裏側で大いに躍動してほしいものです。

（谷釜 記）

2015年度「スポーツ健康科学紀要」編集委員

- ◎ 谷釜 尋徳（法学部）
- 塩田 徹（経済学部）
- 金田 英子（法学部）
- 西村 忍（経営学部）
- 一川 大輔（理工学部）

◎委員長 ○副委員長

スポーツ健康科学紀要 第13号

2016年3月22日 印刷

2016年3月23日 発行

編集兼
発行人 東洋大学スポーツ健康科学委員会
東京都文京区白山5丁目28番20号

制作 蔦友印刷株式会社
東京都文京区白山1丁目13番8号
電話 03(3811)5343

JOURNAL OF SPORT AND HEALTH SCIENCE

No. 13

March, 2016

CONTENTS

Article

- Disaster memory and disaster prevention awareness after the 2004 Sumatra earthquake among high school students in Takua Pa, Thailand
..... KANEDA Eiko (1 ~ 4)

Research report

- Group empowerment for Self-learning-skills (4) :
A practical use of "adventure" in P.E.
..... TASHIRO Koji, YAMAJI Ayumu (5 ~13)

Standing material

- The spread and transformation of the Judo TANIGAMA Hironori (15~43)

Project report

- Formation factor of community development process and the public health after the Sumatra earthquake in Thailand
..... KANEDA Eiko, KAWASUMI Atsushi (45~57)
AN Sang Kyung, TAKAHASHI Kazuo

Lecture report

- Germany and Japan in the Olympic Movement
..... Reported by TANIGAMA Hironori, OGAWA Shota (59~66)
Lecture by Michael Krüger

Published by

TOYO UNIVERSITY

28-20, Hakusan 5-chome, Bunkyo-ku,
Tokyo, Japan



TOYO UNIVERSITY